

3-1 学校適正配置等の基本体系

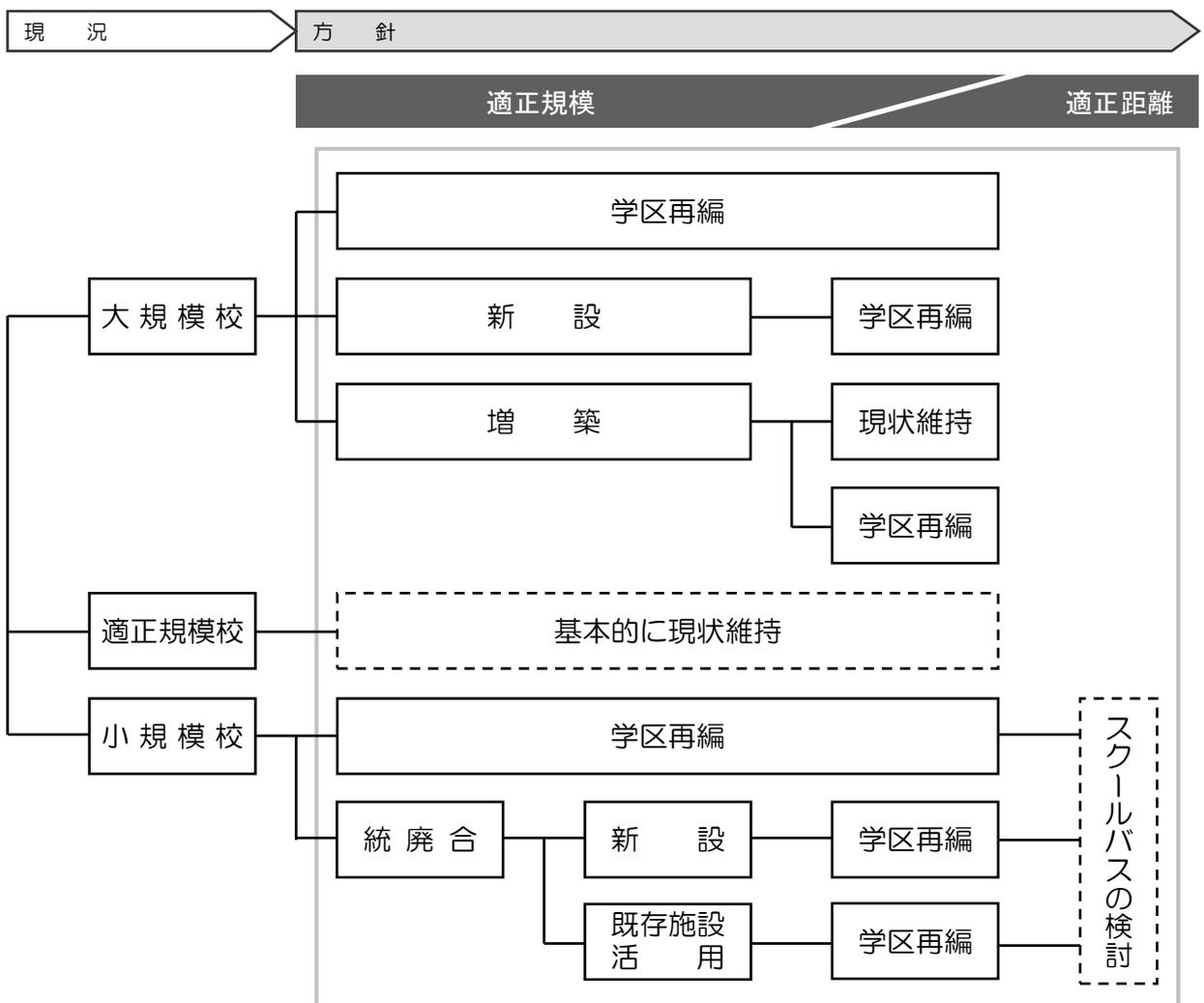
学校適正配置は、各小中学校における大規模化や小規模化等の課題を踏まえ、基本的考え方に基づき、学区の再編や学校の再編によって進めていきます。

大規模校については、新設、増築、学区再編による適正規模化が考えられます。また、新設にあたっては、新設校の設置に併せた学区の新設、増築にあたっては、必要に応じて、隣接する小中学校との学区再編を検討します。

適正規模校については現状維持を基本としますが、隣接する小中学校を適正規模化するために学区再編が必要となる場合があります。

小規模校については、統廃合や学区再編による適正規模化が考えられます。また、統廃合にあたっては、小中一貫校推進を見据えた中学校の隣接地等を活用した新設校への統廃合及び学区再編と、既存校への統廃合及び学区再編を検討します。

■ 学校適正配置等の基本体系図



3-2 学校適正配置等の具体的検討対象

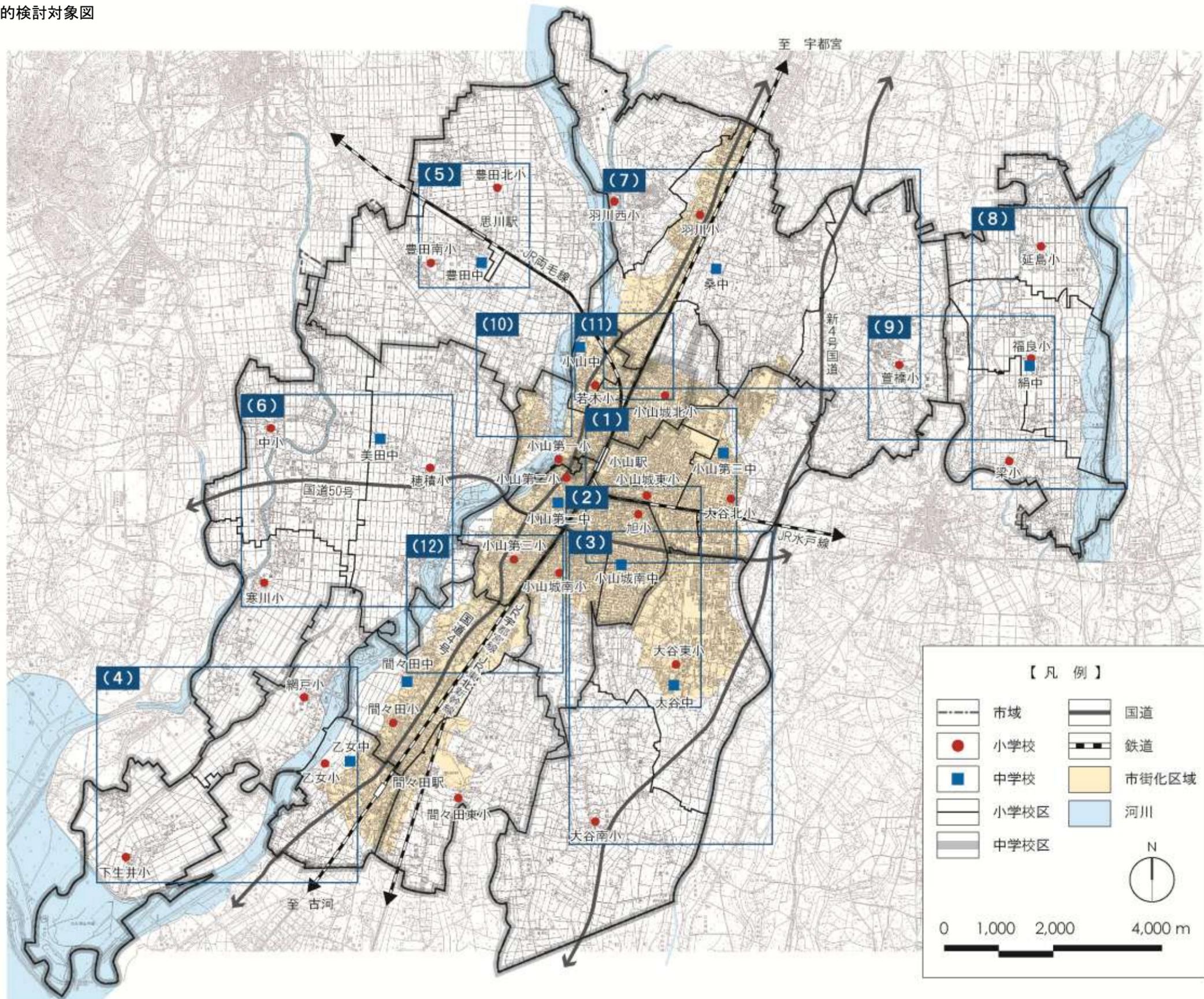
各小中学校に学校規模等の現状と課題や、学校適正配置の体系等を踏まえ、学校適正配置等の具体的な検討対象を整理したものは、以下のとおりです。

■ 学校適正配置等の具体的検討対象表

	対 象	関 連 校	頁
(1)	小山城東小の適正規模化	旭小、小山城東小、小山第三中	60
(2)	城南地区の適正規模化	旭小、小山城東小、小山城南中	62
(3)	大谷東小の適正規模化	大谷東小、大谷南小、大谷中	66
(4)	乙女中学区の適正規模化	乙女小、下生井小、網戸小	70
(5)	豊田中学区の適正規模化	豊田南小、豊田北小	72
(6)	美田中学区の適正規模化	寒川小、穂積小、中小	74
(7)	桑中学区の適正規模化	羽川小、羽川西小、萱橋小	76
(8)	絹中学区の適正規模化	福良小、梁小、延島小	78
(9)	桑中学区及び絹中学区の学区再編	萱橋小、桑中、絹中	80
(10)	思川西部土地区画整理事業区域の学区	小山第一小、小山中、 豊田南小、豊田中	82
(11)	若木小・小山中及び羽川小・桑中の学区再編	若木小、小山中、羽川小、桑中	84
(12)	小山第三小、小山城南小、間々田小の学区再編	小山第三小、小山城南小、間々田小	86

3-2 学校適正配置等の具体的検討対象

■ 学校適正配置等の具体的検討対象図



3-3 具体的な実現方策検討

これまでに整理した課題や、学校適正配置等の全体体系を踏まえ、対応が必要な対策校ごとに検討した具体的な実現方策は以下のとおりです。

（1）小山城東小の適正規模化検討案

【関連校：旭小、小山城東小、小山第三中】

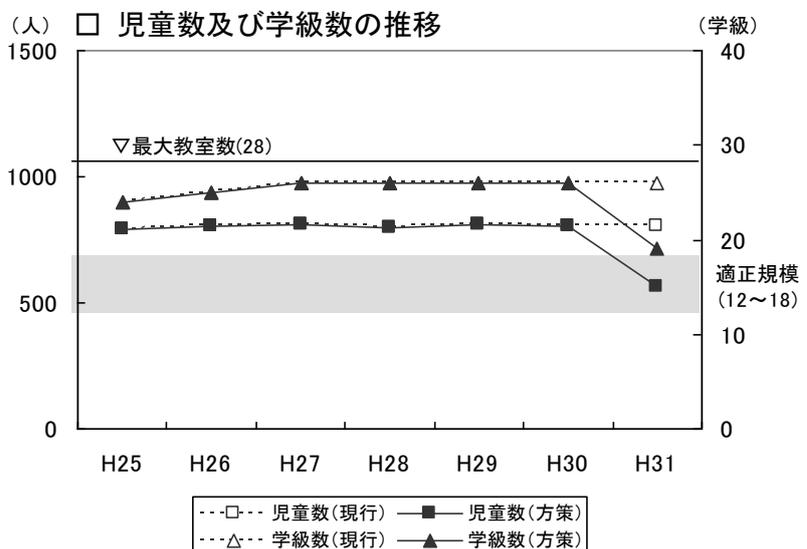


A 小山城東小学区の一部を旭小学区に編入

- 大字土塔（東部第一土地区画整理地内）を旭小学区に編入し、小山城東小学区の児童数を800人前後（最大26学級）から550人前後（最大19学級）と適正規模に近づけることが望ましい。
- また、該当地区居住の児童は、登下校でJR水戸線の踏切を渡らずに済むようになり、登下校時の安全性の確保も図れる。
- ただし、土塔二自治会が2つの学区に分割されるという課題がある。
- 今回の編入にあたっては、小南城南中の過大化を避けるために、該当地区は現行のまま小山第三中学校の学区とする。
- なお、旭小については別途「（2）城南地区の適正規模化検討案」で適正規模化を図る。

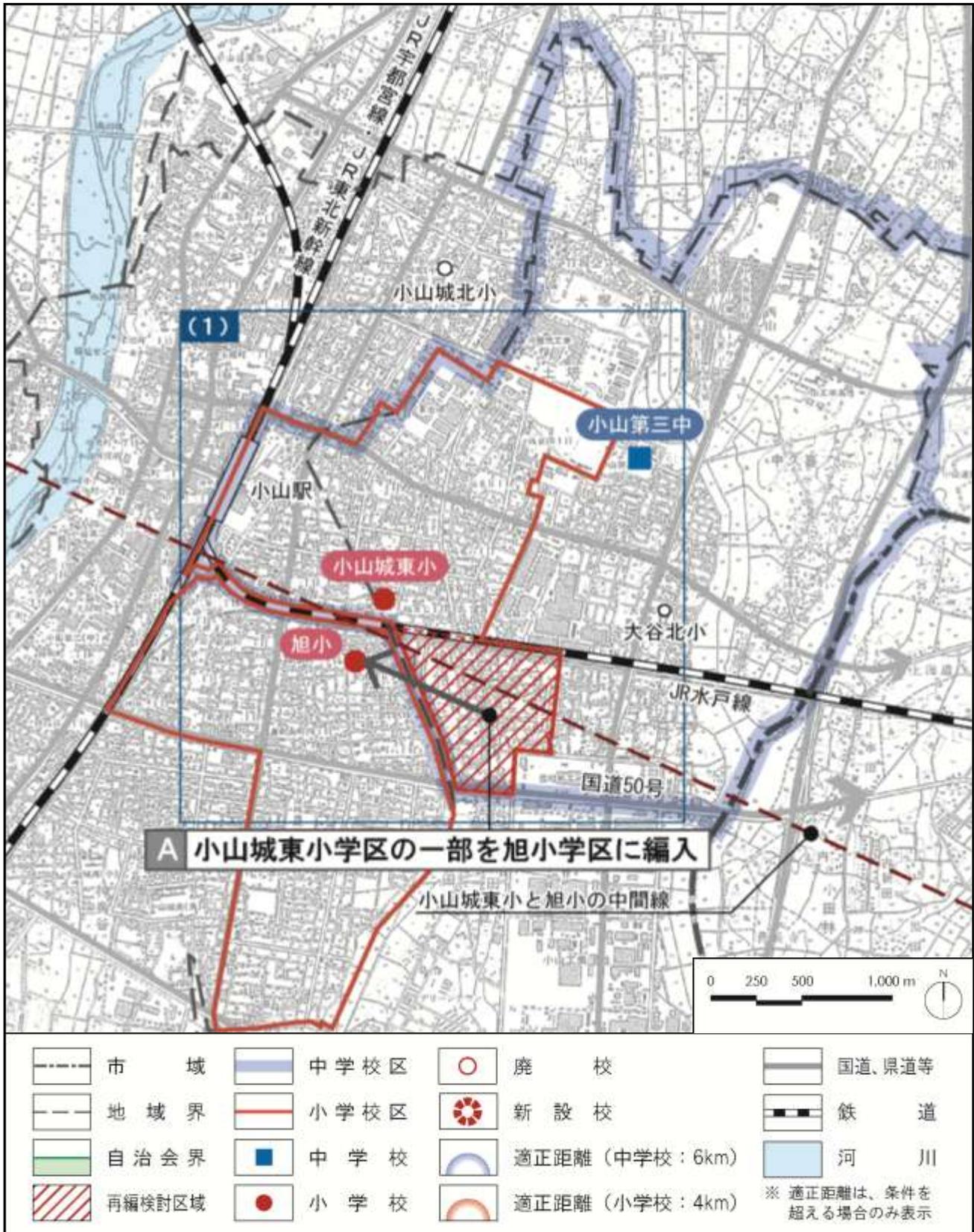
■ 小山城東小学校

○小山城東小学区の大宇小山と大字土塔（東部第一土地区画整理地内）を旭小学区に変更



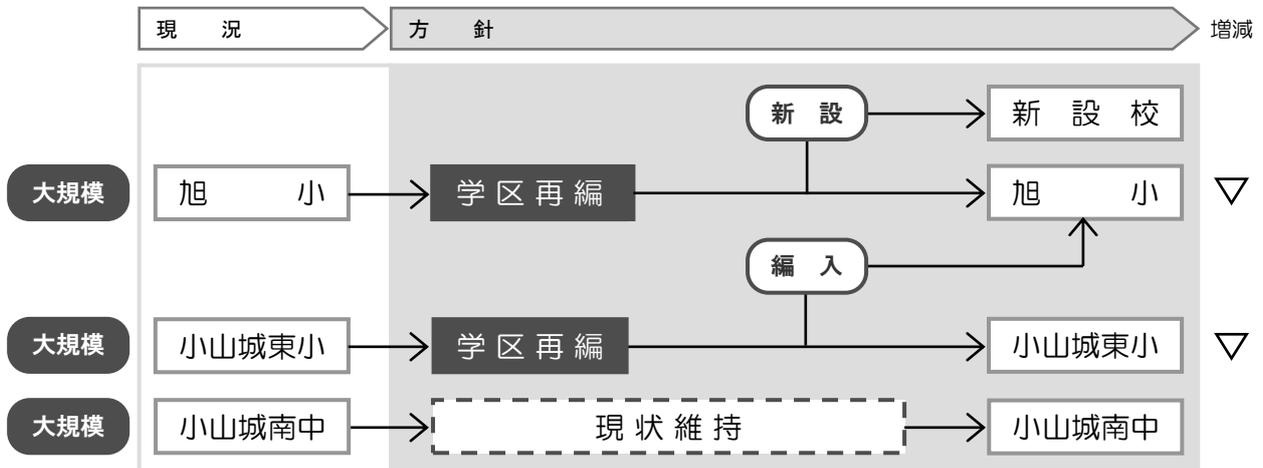
3-3 具体的な実現方策検討

■小山城東小の検討図



（２）城南地区の適正規模化検討案

【関連校：旭小、小山城東小、小山城南中】



A 城南地区新設小学校設置と学区新設

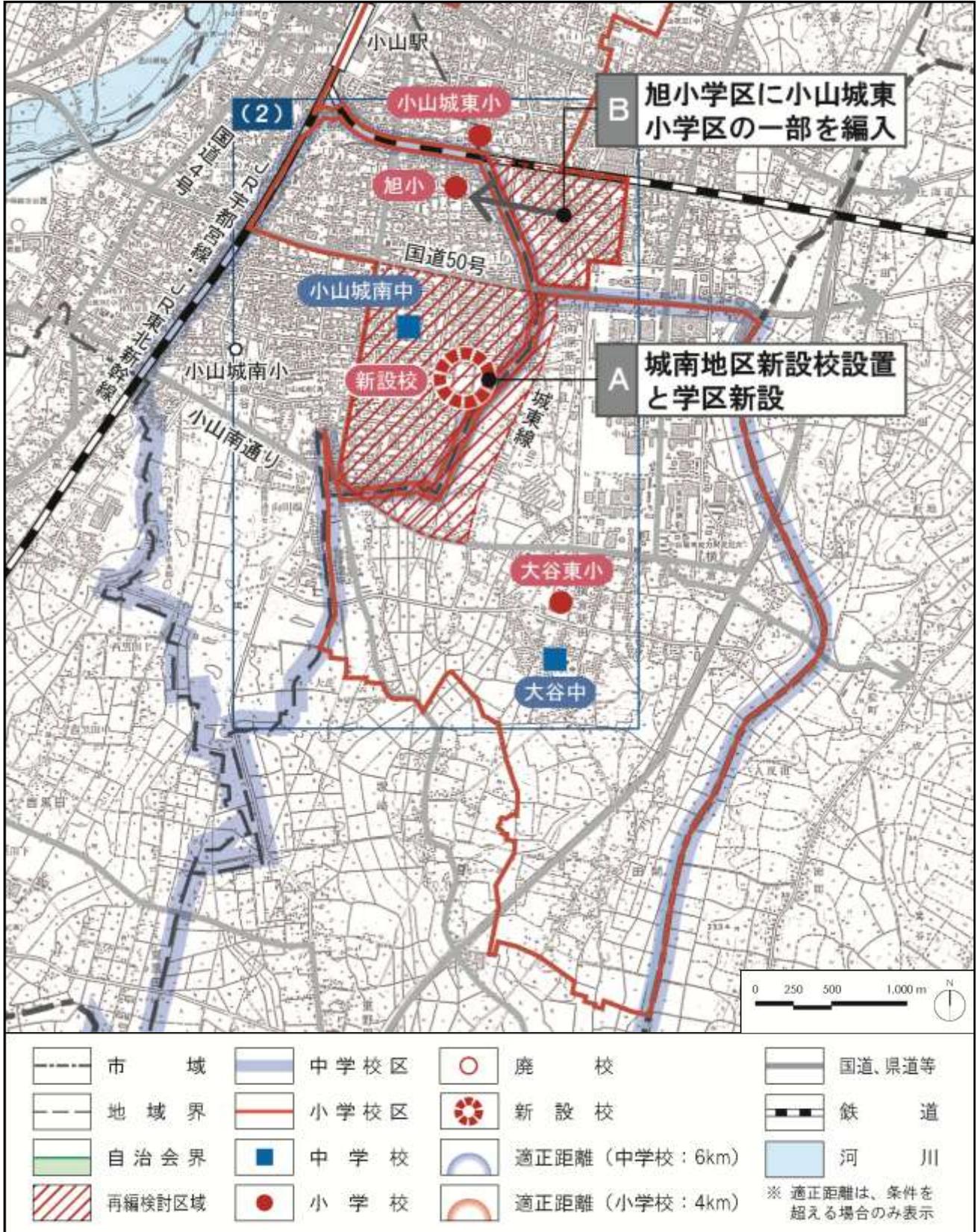
- 旭小及び大谷東小の児童数増加に対応するため、城南地区に小学校を新設することが望ましい。
- これにより、新設校の学区域については、現旭小学区のうち、「国道50号線以南の東城南1～5丁目」及び「東城南東側の大字小山地区」と、大谷東小学区のうち、「城東線の西側で、かつ小山南通り以北」を併せた区域とする。（ただし、中学校区は変更しない）
- 国道50号線以南を旭小学区から新設校学区にすることにより、登下校で国道50号線を渡る危険を回避することができ、安全性の向上が見込まれる。
- 新設校の設置にあたっては、平成26～30年度で整備し、遅くとも平成31年度に開校できることが望ましい。

B 旭小学区に小山城東小学区の一部を編入

- 旭小学区は、現小山城東小学区の再編に伴い、「大字土塔（東部第一土地区画整理地内）」を旭小学区に変更するとともに、その後、「国道50号以南の東城南1～5丁目とその東側の大字小山地区」を新設校学区に変更する。
- 国道50号線以南を旭小学区から新設校学区にすることにより、登下校で国道50号線を渡る危険を回避することができ、安全性の向上が見込まれる。

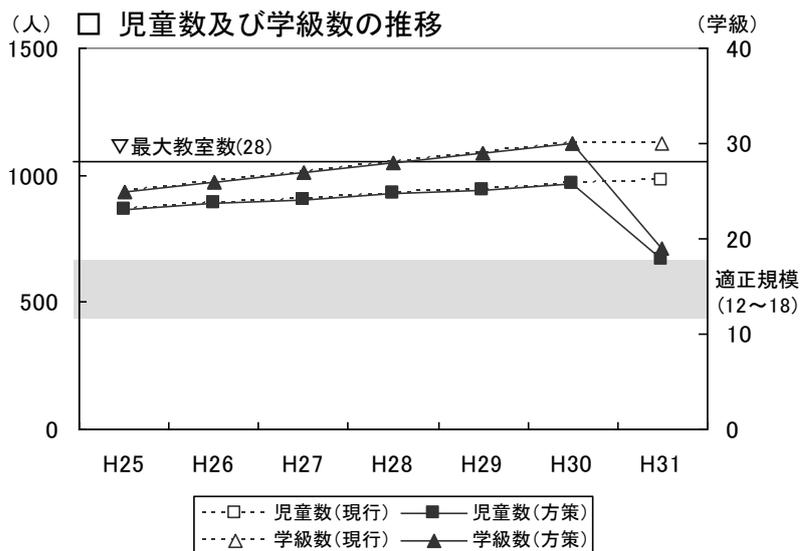
3-3 具体的な実現方策検討

■ 城南地区の検討図



■ 旭小学校

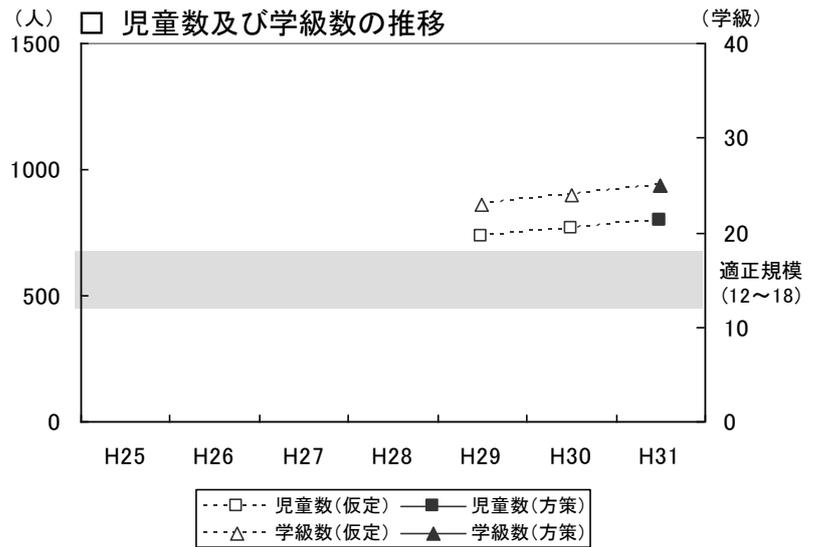
- 旭小学区の東城南1～5丁目及び国道50号線以南の大字小山地区を新設小学区に変更
- 小山城東小学区の大字土塔（東部第一土地区画整理地内）を旭小学区に変更



3-3 具体的な実現方策検討

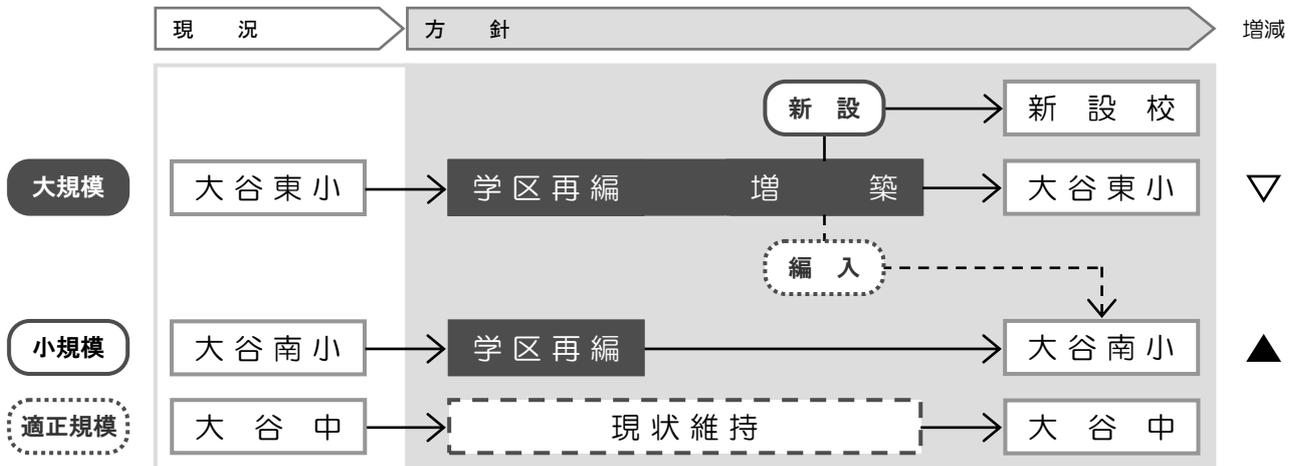
■ 新設小学校

- 旭小学区の東城南1～5丁目及び国道50号線以南の大字小山地区を新設小学区に変更
- 大谷東小学区の小山南通り以北と城東線西側を新設小学区に変更



（３）大谷東小の適正規模化検討案

【関連校：大谷東小、大谷南小、大谷中】



A 大谷東小学校における大規模化への対策

- 大谷東小は、平成28年度には可能な限り特別教室を普通教室に転用した場合の、最大普通教室数30を超える32学級とすることが予想される。
- このことから将来的には分離・新設が必要であるが、教室数不足などの緊急性の高い課題に対応するため、増築することが必要である。
- 増築については教室数不足に対応するため、平成28年度までに完了することが望ましい。

B 城南地区新設校設置と新設校に伴う学区再編

- 大谷東小及び旭小の児童数増加に対応するため、城南地区に小学校を新設することが望ましい。
- 新設校の学区域は、現大谷東小学区のうち、「城東線の西側」及び「小山南通以北」と、現旭小学区のうち、「国道50号線以南の東城南1～6丁目」及び「その東側の大字小山地区」を併せた区域とする。（ただし、中学校区は変更しない）
- ただし、雨ヶ谷自治会が分断されるという課題がある。
- 新設校の設置にあたっては、平成26～30年度までに整備し、遅くとも平成31年度に開校できることが望ましい。

C 大谷東小学区の一部を大谷南小学区に編入

- 大字田間地区（大谷東小学区）は、大谷南小からの通学距離も適正範囲内で、両校への通学距離は大差ないことから、大谷東小の大規模化の緩和と、大谷南小の児童数増加を図るため、大字田間地区を大谷南小学区に編入することが望ましい。
- ただし、大字田間は横倉新田自治会（大谷東小学区）の加入住民が多いことから、住民の意向や社会的圏域に十分に配慮する必要がある。

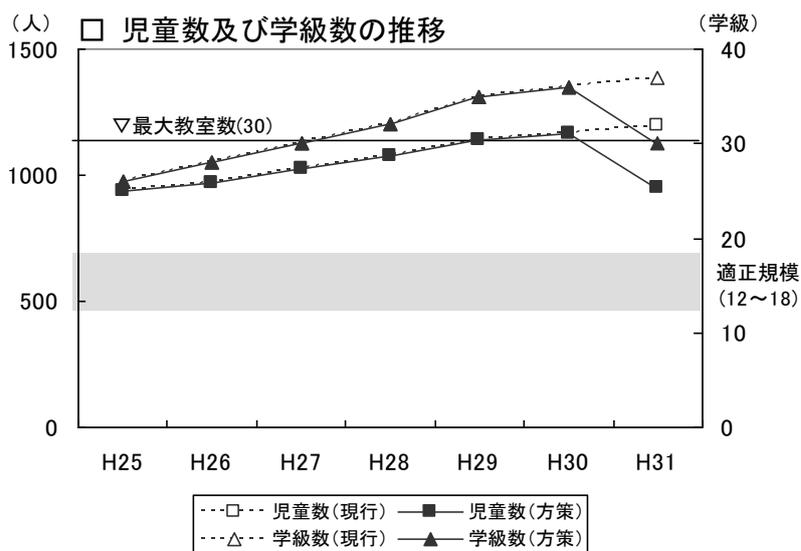
3-3 具体的な実現方策検討

■ 大谷東小等の適正規模化の検討図



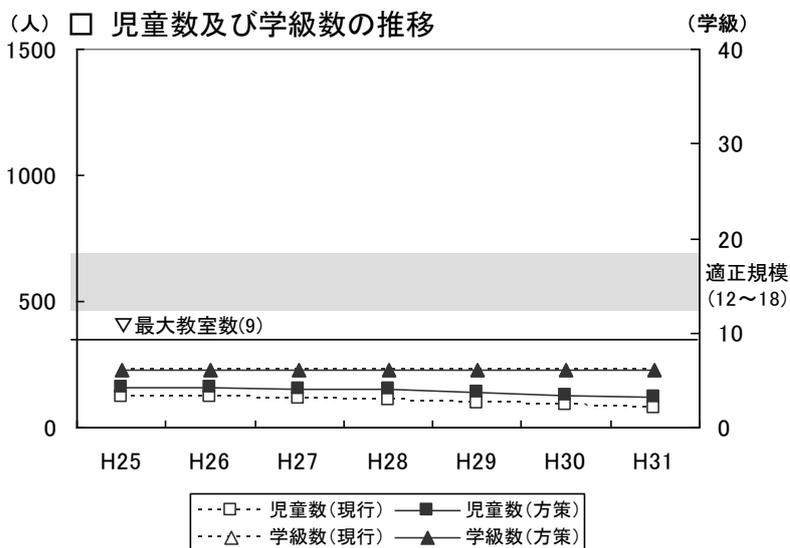
■ 大谷東小学校

○大谷東小学区の小山南通り以北と城東線西側を新設小学区に変更
 ○大字田間地区の大谷東小学区から大谷南小学区への編入



■ 大谷南小学校

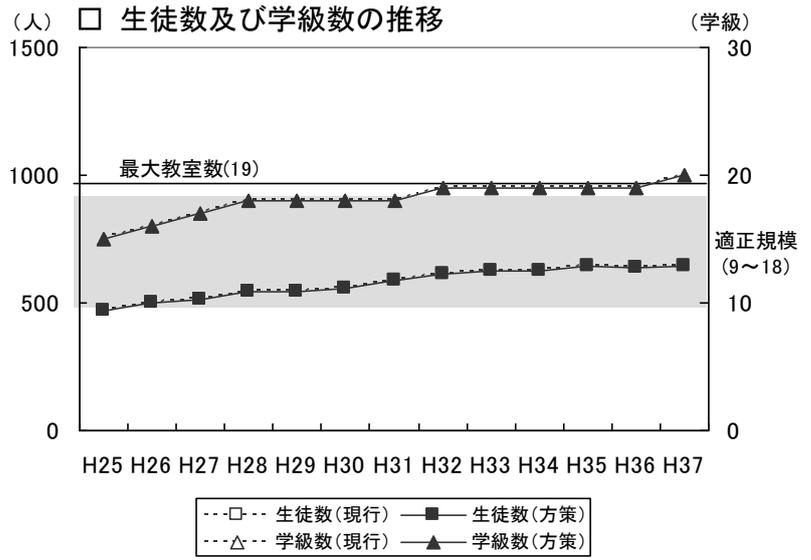
○大字田間地区の大谷東小学区から大谷南小学区への編入



3-3 具体的な実現方策検討

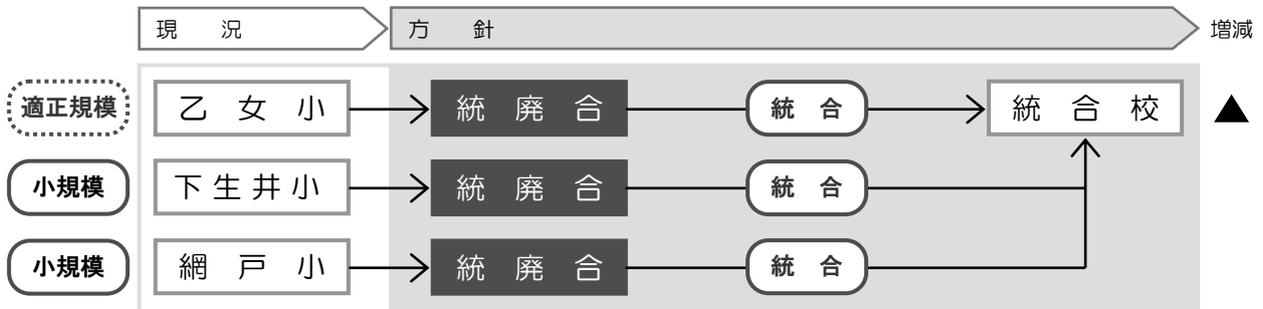
■ 大谷中学校

○新設校の設置に併せた学区
再編を行わず、現状維持



（４）乙女中学区の適正規模化検討案

【関連校：乙女小、下生井小、網戸小】

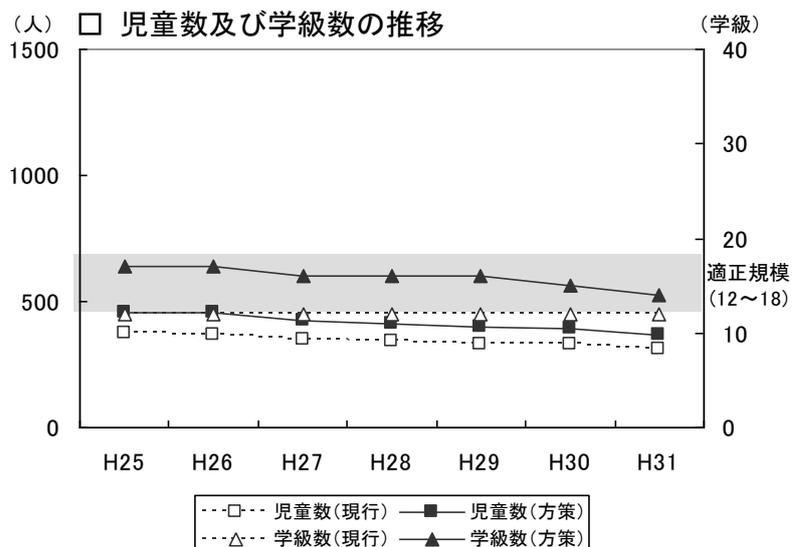


A 乙女小、下生井小、網戸小を、校地を乙女小として統合

- 下生井小、網戸小は児童数の減少が著しく、小規模特認校になっていることや、市費教職員を配置して複式学級を回避していることから、乙女小、下生井小、網戸小は校地を乙女小として統合することが望ましい。
- 統合にあたっては、下生井小と網戸小の一部は、通学距離が適正距離の4kmを超えることから、通学手段の確保（スクールバス等）が必要となる。
- また、乙女中との小中一貫教育校として推進することが望まれる。

■ 統合校（校地を乙女小として）

○乙女小、下生井小、網戸小を、校地を乙女小として統合



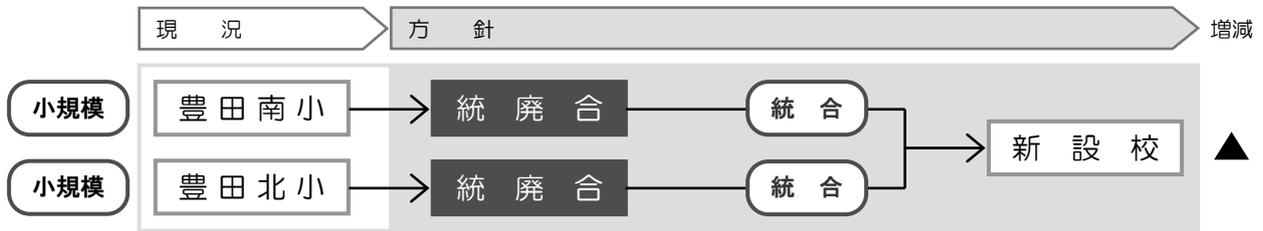
3-3 具体的な実現方策検討

■ 乙女中学区の検討図



（５）豊田中学区の適正規模化検討案

【関連校：豊田南小、豊田北小】



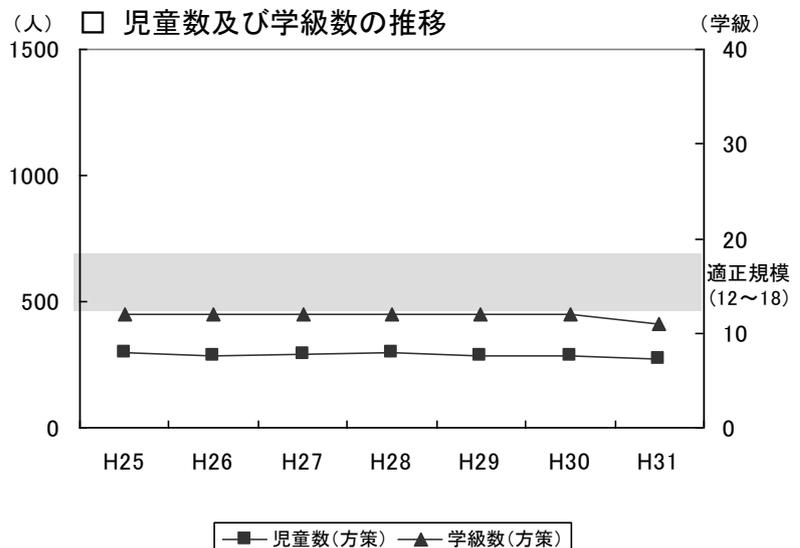
A

豊田南小、豊田北小を統合し、豊田中との小中一貫教育に適した位置に新設校を設置

- 豊田南小、豊田北小は学年1学級となっており、適正規模の学年2～3学級に満たないことから、豊田南小と豊田北小を統廃合することが望ましい。
- 豊田中学区では、小中一貫教育の取り組みとして、平成24年度に市内で最も早く第2ステージ（中学校区の実態に即した研究推進）を終了し、平成25年度から第3ステージ（発展的な研究推進）に入ったことや、学校建設から豊田南小が36年、豊田北小が39年を経過していることなどから、豊田中との小中一貫教育に適した位置に統合校を新設し、小中一貫教育を推進することが望ましい。
- 統廃合にあたっては、学区内住民の意見に配慮しつつ、計画的に小学校建設を進める必要がある。
- 統廃合した場合、通学距離は概ね適正距離の範囲内となるが、一部遠距離地域もあるため、スクールバスも検討する必要がある。

■ 豊田南小学校・豊田北小学校

○豊田南小、豊田北小を統合し、豊田中との小中一貫教育に適した位置に新設校を設置



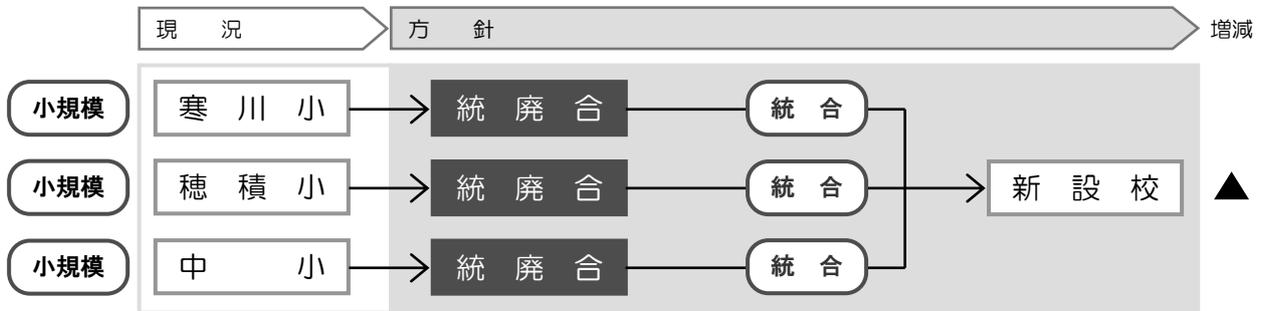
3-3 具体的な実現方策検討

■ 豊田中学区の検討図



（6）美田中学区の適正規模化検討案

【関連校：寒川小、穂積小、中小】



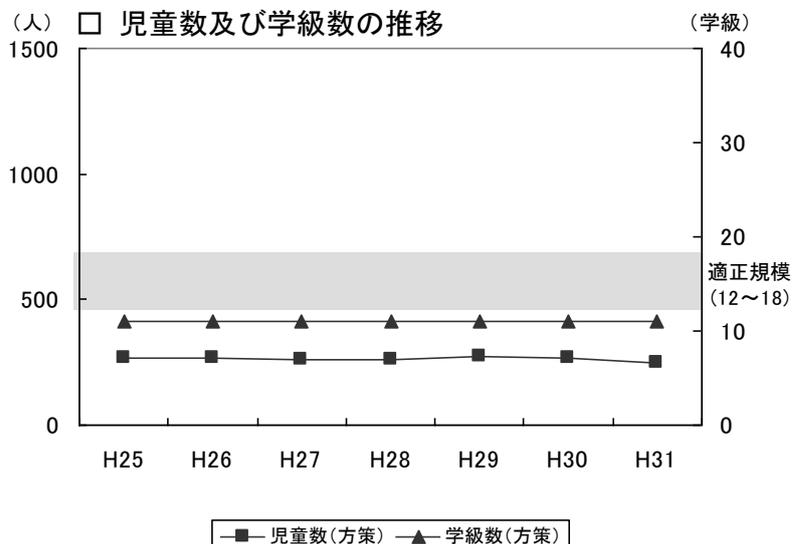
A

寒川小、穂積小、中小を統合し、美田中との小中一貫教育に適した位置に新設校を設置

- 美田中学区は、寒川小、穂積小、中小ともに学年1学級であり、適正規模を目指すため、統廃合することが望ましい。
- 寒川小、穂積小、中小ともに学校建設から34～42年を経過しており、近い将来、建て替えの必要が生じる。なお、耐震補強は寒川小と穂積小の校舎が平成23年度、寒川小屋内運動場と中小の校舎が平成24年度に完了している。
- 寒川小の児童数は減少しているものの、複式学級とまではいかないものであり、穂積小も平成31年度まではほぼ横ばいとなる。また、中小は若干増加傾向が見られる。
- これらのことから、校舎更新時期を見極めて、美田中との小中一貫教育に適した位置に統合校を新設し、小中一貫教育を推進することが望ましい。
- 統廃合にあたっては、通学距離が適正距離を超えることから、通学手段の確保（スクールバス等）が必要となる。

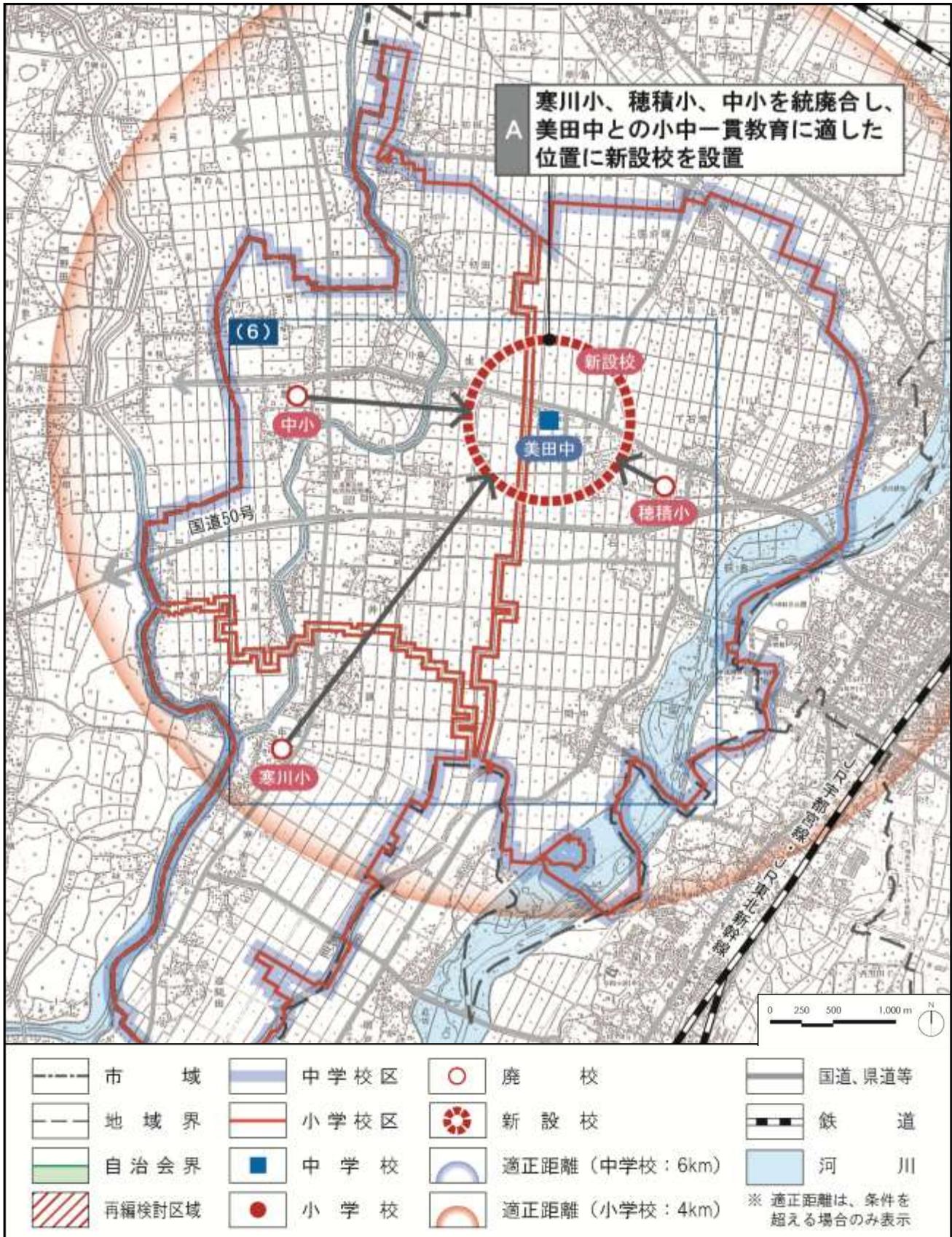
寒川小学校、穂積小学校、中小学校

○ 寒川小、穂積小、中小を統廃合し、美田中との小中一貫教育に適した位置に新設校を設置



3-3 具体的な実現方策検討

■ 美田中学区の検討図



（7）桑中学区の適正規模化検討案

【関連校：羽川小、羽川西小、萱橋小】



A 羽川小、羽川西小、萱橋小は現状維持

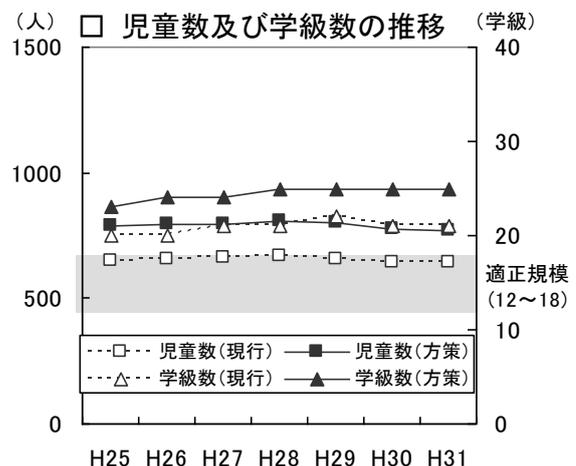
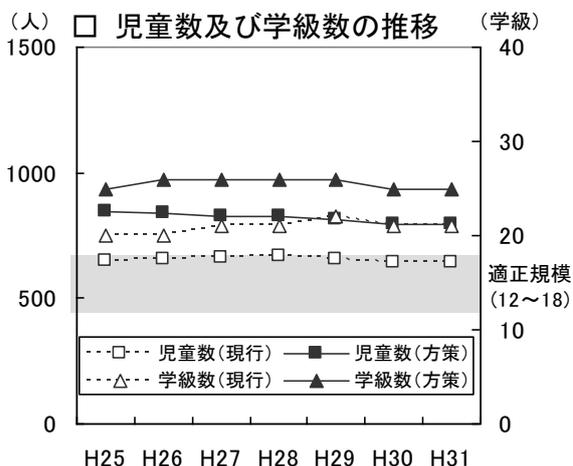
- 羽川小は現在20学級で、適正規模を少し上回る程度で、今後も650人前後の児童数、20学級程度を維持する見込みである。
- 羽川西小は現在の児童数が193人で、6年後には149人に減少するものの、学校・学級運営に支障をきたすほどではなく、羽川小に統合した場合には、800人以上、26学級となり、適正規模を上回ることから、現段階での統廃合は不適切と考えられる。
- 萱橋小は現在の児童数135人が6年後には128人に減少するものの、その傾向は緩やかであり、また、羽川小に統合した場合、800人近い児童数で23～25学級となり、適正規模を上回ることから、現段階での統廃合は不適切と考える。

■ 羽川小学校（+羽川西小）

○羽川西小を羽川小に統合した場合、羽川小は適正規模を上回る。

■ 羽川小学校（+萱橋小）

○萱橋小を羽川小に統合した場合、羽川小は適正規模を上回る。



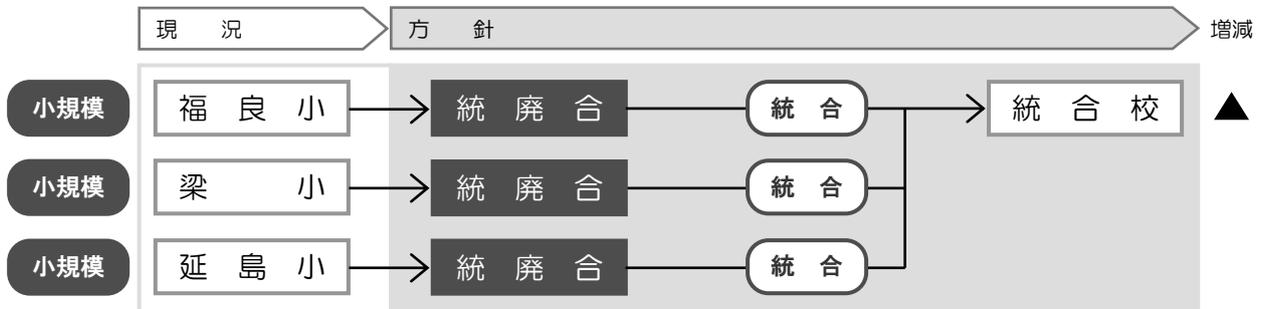
3-3 具体的な実現方策検討

■ 桑中学区の検討図



（８）絹中学区の適正規模化検討案

【関連校：福良小、梁小、延島小】

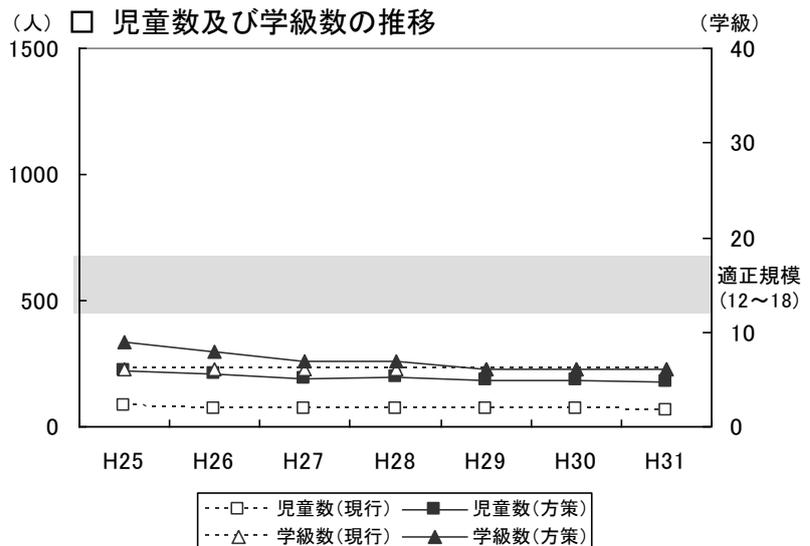


A 福良小、梁小、延島小を、校地を福良小として統合

- 絹中学区は、福良小、梁小、延島小ともに児童数が100人以下で、特に延島小は28年度に複式学級の発生が見込まれることから、絹地域の中央部に位置する福良小を校地に統廃合することが望ましい。
- 福良小は絹中に隣接しており、小中一貫校を推進するうえでの形態条件が整っていることから、統合校は絹中との小中一貫教育校として推進していくことが望ましい。
- 統廃合にあたっては、一部に通学距離が適正距離を超えるところもあることから、通学手段の確保（スクールバス）を検討する必要がある。

■ 統合校（校地を福良小として）

- 福良小、梁小、延島小を、校地を福良小として統合



3-3 具体的な実現方策検討

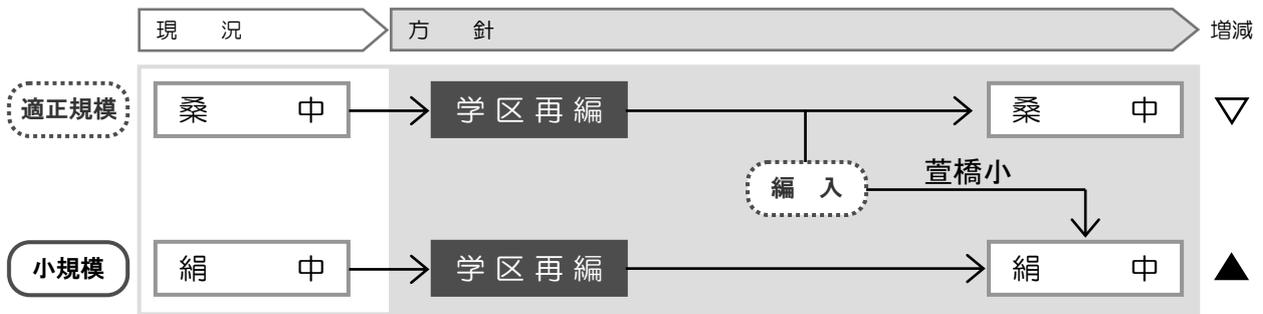
■ 絹中学区の検討図



（９）桑中学区及び絹中学区の学区再編検討案

【関連校：萱橋小、桑中、絹中】

■ 桑中学区における現況と再編方針

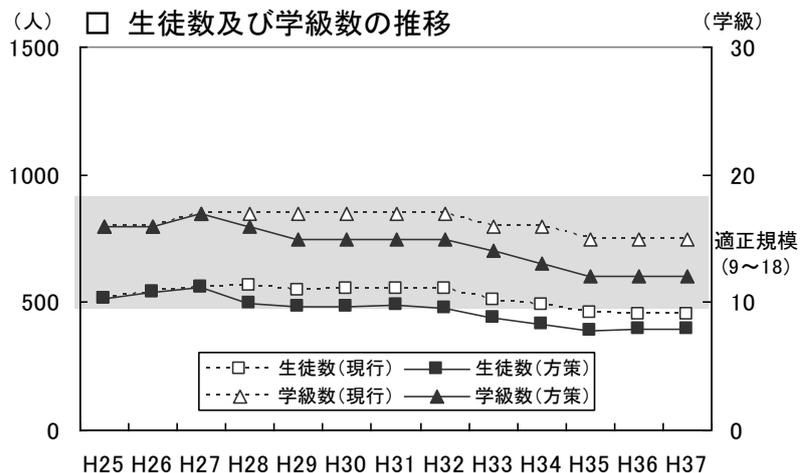


A 萱橋小を桑中学区から絹中学区に変更する可能性を検討

- 絹中は7年後にすべての学年が1学級になるが、地域性を考慮すると、他地域との統合等は難しい。
- 萱橋小を桑中学区から絹中学区に移行した場合、絹中は平成28年度に181人（7学級）から平成37年度に141人（6学級）となり、学年2学級を確保することができる。
- また、桑中は平成28年度497人（16学級）から平成37年度397人（12学級）で、適正規模となる。
- 萱橋小は長く桑中の学区であり、旧桑村・絹村の時代から別学区であることも十分に考慮する必要がある。
- 以上のことから、萱橋小を絹中学区に変更することが望ましいと考え、その可能性の検討が必要である。

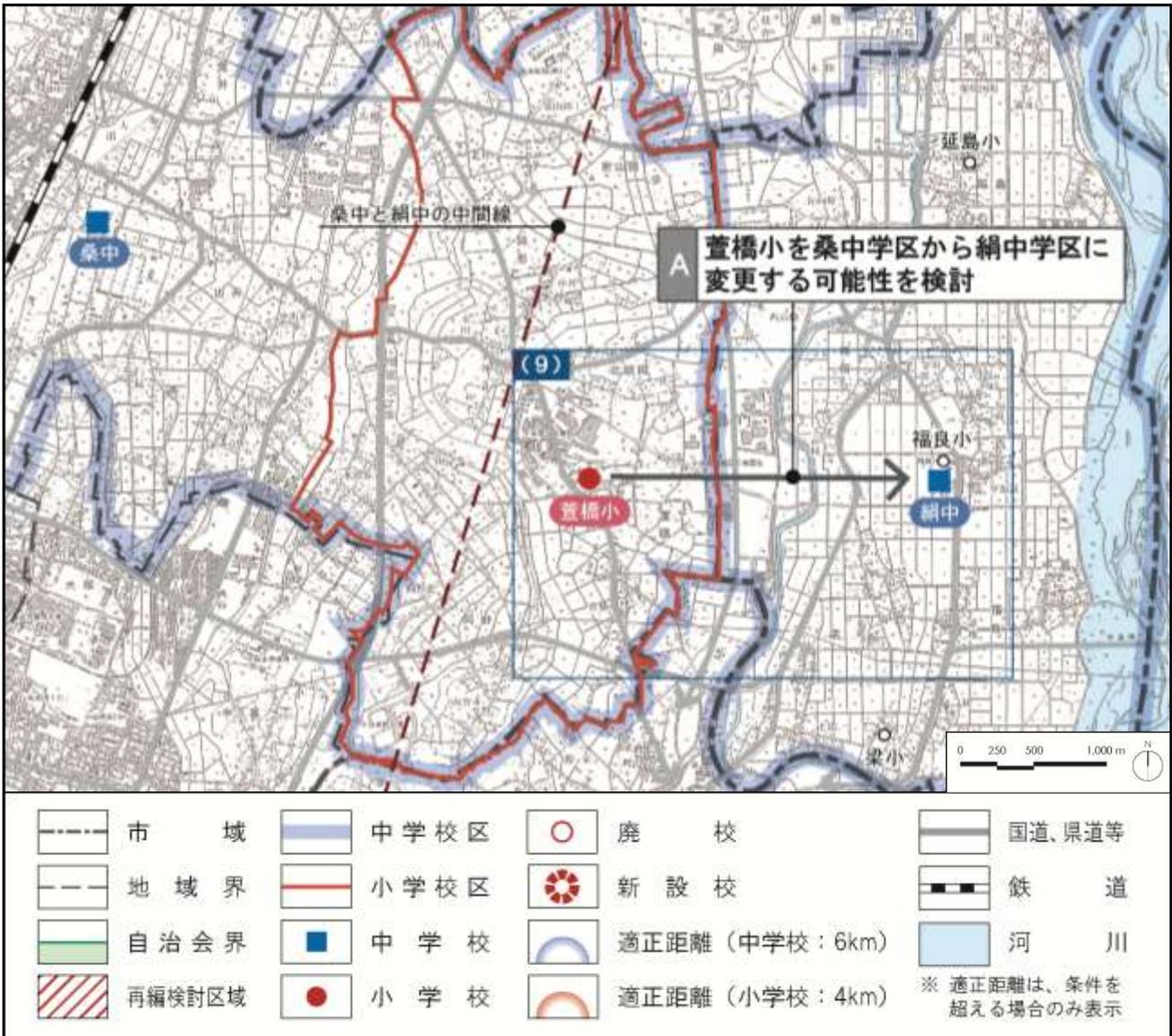
■ 桑中学校

- 萱橋小を桑中学区から絹中学区に変更



3-3 具体的な実現方策検討

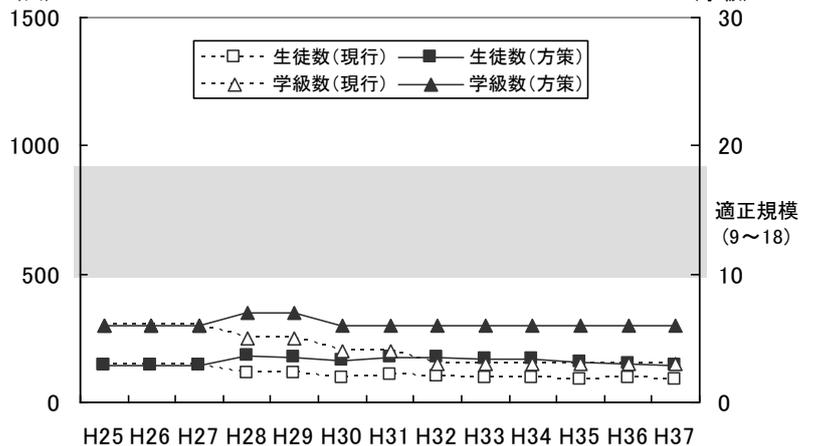
■ 桑中学区及び絹中学区の検討図



■ 絹中学校

○ 萱橋小を桑中学区から絹中学区に変更

□ 生徒数及び学級数の推移



■ (10) 思川西部土地区画整理事業区域の学区検討

【関連校：小山第一小、小山中、豊田南小、豊田中】

思川西部土地区画整理事業区域の学区検討については、学校の適正規模の視点と児童生徒の安全の視点等によって異なる考え方となるが、地元の意向等をよく考慮することが望ましい。

A

思川西部土地区画整理事業区域の学区については、地元意向及び通学環境等を配慮して定めることが望ましい

- 以下の視点を基準に両学区を比較検討した場合、小山第一小学校区とすることが望ましいと考える。
 - ・ 当該区域は土地区画整理事業を実施し、市街化区域とすることが目的であり、既存の市街化区域の拡大であることから、既存の区域と同様に小山第一小学校の区域とすることが適切であること。
 - ・ 小山第一小への通学距離がより短く、また豊田南小へはバス通学が必要となること
 - ・ 小山第一小への通学路の方が歩道整備が進んでおり、交通安全性が高いこと
- 学校の適正規模の視点からは、豊田南小の児童数及び豊田中の生徒数を確保するために、豊田南小学区・豊田中学区とすることも考えられる。

■ 参考：思川西部土地区画整理事業の現状

- ・ 思川西部土地区画整理事業の区域は、豊田南小・豊田中と小山第一小・小山中の通学区域の境界に位置しています。
- ・ この事業は、中心市街地の活性化のため、小山駅に比較的に近く有利な立地条件にある思川西部地区において、市街化区域を拡大して土地区画整理事業を行い、優良な住宅や宅地の供給を促進することを目的にしており、市街地と一体の地域といえます。
- ・ 計画では、平成25年度末から事業に着手し、平成26年度末から保留地処分を始め、平成30年度末には事業を完了させる予定となっております。したがって、保留地処分時には学区を決定しておく必要があります。

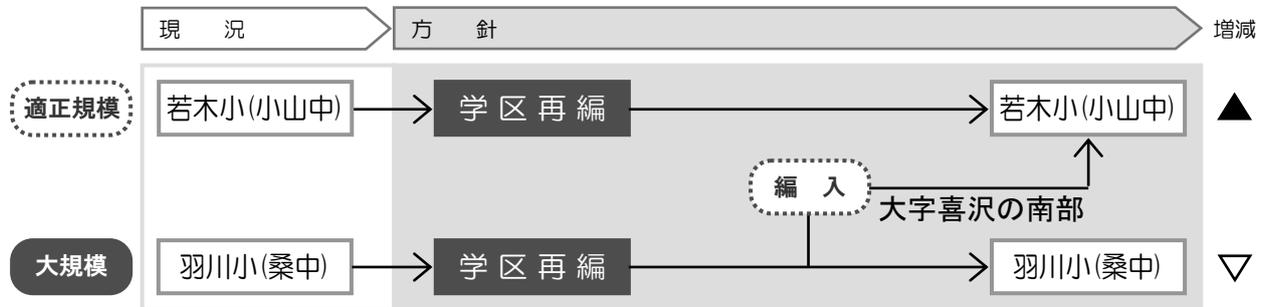
3-3 具体的な実現方策検討

■ 思川西部土地区画整理事業区域の検討図



■ (11) 若木小・小山中及び羽川小・桑中の学区再編検討案

【関連校：若木小、小山中、羽川小、桑中】



A

喜沢南部自治会を主とする大字喜沢の南部を羽川小・桑中学区から若木小・小山中学区に編入

○ 大字喜沢は羽川小学区・桑中学区となっているが、特に喜沢南部自治会は若木小が近く、若木小・小山中への通学希望者が多くなっている。

※ 喜沢南部自治会の小学生 77 名のうち、学区外通学の事情が認められて若木小に通学している児童は 59 名 (79.4%)、中学生 29 名のうち、小山中に通学している生徒は 21 名 (72.4%) となっている。

○ 喜沢南部自治会の区域は、距離的に若木小・小山中が近いことから、指定校変更を申請する児童生徒が多くなっている。

○ これらのことから、喜沢南部自治会区域の住民が羽川小学区・桑中学区から若木小学区・小山中学区への変更を望む場合は、喜沢交番付近を境に学区を再編することが望ましい。

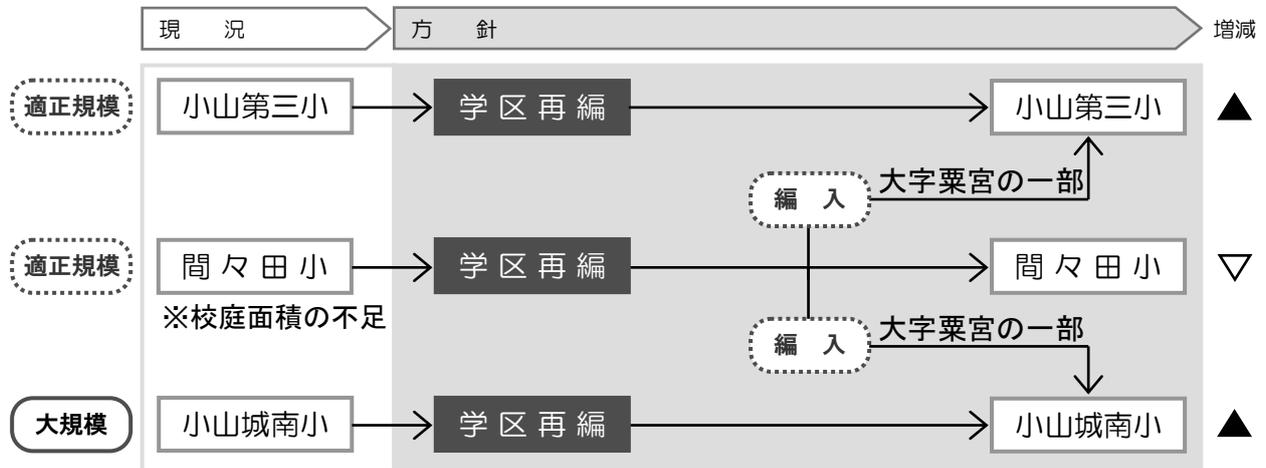
3-3 具体的な実現方策検討

■ 若木小・小山中及び羽川小・桑中の検討図



■ (12) 小山第三小、小山城南小、間々田小の学区再編検討案

【関連校：小山第三小、小山城南小、間々田小】



A

大字栗宮の一部（JR西側で小山環状線北側）を間々田小学区から小山第三小学区に編入

B

大字栗宮の一部（JR東側で小山環状線北側）を間々田小学区から小山城南小学区に編入

- 間々田小学区の北端に位置する栗宮の一部は通学距離が長く（直線距離で3.5km）、線路の西側では小山第三小、線路の東側では小山城南小が近くなっている。
- ※ 大字栗宮在住の小学生123名のうち、間々田小学区の児童は104名、小山第三小学区の児童は19名となっている。
- ※ 現在、通学区変更により小山第三小に通学する児童は2名、小山城南小に通学する児童は1名となっている。
- また、間々田小の校庭面積は7,700㎡で、児童数が同程度の間々田東小の半分以下となっており、校庭南側の県道拡幅により、さらに面積が減少する。
- これらのことから、栗宮の住民が間々田小学区から小山第三小又は小山城南小学区への変更を望む場合は、栗宮の一部の学区を再編することが望ましい。

3-3 具体的な実現方策検討

■ 小山第三小、小山城南小、間々田小の検討図

